県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	新井　佳樹	所　　属	U15
大 会 名	関東 U15 部会所属　審判クリニック		
期　　間	２０２４年　2月２３日　～　２４日（参加日：2月２３日･２４日）		
会　　場	塩浜市民体育館		

ス ケ ジ ュ ー ル		
期　　日	内　　容	場　　所
2月２０日	開校式･講習会	ZOOM 会議　参加者自宅他
2月２３日	関東 U14DC 交流試合（女子）	塩浜市民体育館
2月２４日	関東 U14DC 交流試合（男子）	塩浜市民体育館

講習会　講義内容

講師の藤代透氏、若林謙作氏より関東クリニックにむけての講義をいただいた。概要は以下の通り。

●藤代氏

・2 日間を通して、言われるがままではなく、「自分がどんな審判でありたいか」を大事にする。

・緊張するだろうけれど、遠慮をせずに自分の持ち味を精一杯出す。

・クルーと相談しながら力を発揮する。

・上級へのステップとする。

・各都県の中心として活躍をしながら、仲間と一緒に盛り上げる存在になる。

●若林氏

・「メカ」「IOT」「プレーコーリング」「プレゼンテーション」で特に大事にしたいこと、重視したいことは「プレーコーリング」

・2 日間「寄り添う」ことをテーマにしてほしい。

・選手、ベンチ（コーチ）、クルー（TO）、保護者、観客に「寄り添う」には「プレーコーリング」が大事であり、「判定」が求められる。
観客に対しては「プレゼンテーション」も「寄り添う」ことにつながるが、U15 の試合の多くの場合、会場に観客はほとんどいない。

・同じように判定をするために

①選手、チームの特徴の把握
- ・スピード（RSBQ、トラベリング）
- ・シューター（FUL、キックアウト）
- ・ビッグマン（手の使い方、3sec）
- ・すぐ倒れる（ブロック or チャージ）
- ・プレス（バックパス、8sec、シリンダー）
- ・カッティング（FOM、SCR）
- ・小さいチーム（リバウンド）
- ・アピール（警告、TF）
- ・コーチ（インテグリティ）

②ゲームフローの把握
- ・テンポセット（各 Q の入り）
- ・タイムアウト（何をしてくるか）
- ・交代（目的は何か）
- ・チームファール（ファウルテイクするか）
- ・点差（プレーの強度が上がる）
- ・EOQ（ラストショットは誰か）
- ・EOG（ファウルゲームするか）
- ・ナチュラルインターバル
- ・インテンシティ（無理にコールしない）

・相手の気持ちに「寄り添う」ことができる人
物事を俯瞰して、客観的に捉える、気配り、相手の変化に気づく　ことができるかどうか　これについてトライしていく。

●藤代氏、若林氏両名から
「仲間を大切にしましょう」

担当試合①	
期　　日	２月２３日（金）　U14DC 女子
対戦カード	①東京 vs 群馬　②山梨 vs 栃木　③千葉 vs 埼玉　７分－１分－７分
ク　ル　ー	①CC 新井　U1 山口　拓朗氏（千葉）　U2 竹澤　泰偲氏（栃木） ②CC 山口　拓朗氏（千葉）　U1 竹澤　泰偲氏（栃木）　U2 新井 ③CC 竹澤　泰偲氏（栃木）　U1 新井　U2 山口　拓朗氏（千葉）
ミーティング内容	講師：若林　謙作氏（栃木） 審判主任：栗田　賢吾氏（神奈川） 審判主任：星河　聖氏（群馬） 審判主任：木村　勇氏（茨城）

▶ゲーム後のミーティング

・トレイルとセンターの位置取りが高いから、ロートレイルやローセンターで捉える。

・スイッチサイド中にショットなどが起こったときに、ミッドラインを越えていなければ、バックペダルで戻ることを意識する。

・ファウルバランスを把握する。

・Same play Same call.

・ストロングセンターを発揮する。センターサイドのプレーに対して強く判定をする。

・クルーに「寄り添う」。

今回の交流試合は、タイムアウト無しというルールだったため、ゲーム中にクルーでコミュニケーションをとることができない状況であったため、途中で情報を共有して修正することができなかった。プレゲームカンファレンスやチームや選手のスカウティングなどのゲーム前の確認の重要性を改めて痛感した。普段は同地区、同連盟、同県で行うため、共通認識できている部分に助けられているが、それでもプレゲームカンファレンスは大事にしていかなければならないと感じた。

担当試合②	
期　　日	２月２４日（土）　U14DC 男子
対戦カード	①山梨 vs 神奈川　②東京 vs 神奈川　③群馬 vs 茨城
ク　ル　ー	①CC 新井　U1 飯村　駿平氏（神奈川）　U2 小林　拓海氏（茨城） ②CC 飯村　駿平氏（神奈川）　U1 小林　拓海氏（茨城）　U2 新井 ③CC 小林　拓海氏（茨城）　U1 新井　U2 飯村　駿平氏（神奈川）
ミーティング内容	講師：藤代　透氏（東京） 審判主任：星河　聖氏（群馬） 審判主任：草野　伸明氏（東京） 審判主任：林原　潤氏（千葉）

▶ゲーム後のミーティング

・クロックの管理をする。（TO とのコミュニケーションを積極的に図る。通り過ぎる時に「大丈夫だよ」などと声をかけるだけでもよい）

・ゲーム後半の流れの変化を感じて、テンポセットし直さなければならないときもある。

・CC としてセンターからセカンダリーで吹く強さを持つ。

・エッジの分担をする。（トレイルとリードがそれぞれどこを捉えているのかをお互いに知る）

・ウォーニングを入れたときにクルーで共有をする。

・ゲームフローを感じて、インテンシティコントロールも意識する。

・笛を入れるべきポイントで笛を入れることができていた。

２日目は男子ゲームで、コンタクトも多く、リーガルかマージナルかイリーガルかの判定を求められた。クルーで基準をそろえることも難しく、選手やベンチにフラストレーションをためさせてしまうことがあった。ファウルバランスが悪くなってしまう時間帯があり、ゲームフローを感じる力がまだまだ足りていない。

全体の感想
今回の関東クリニックのテーマが「寄り添う」であったため、選手、ベンチ（コーチ）、クルー（TO）、保護者、観客それぞれに対してどう寄り添うことができるのかを考えた２日間でした。これまでの審判活動で、「試合を円滑に進める」ということは意識をしていましたが、「寄り添う」という感覚は、ほとんどありませんでした。 事前のオンラインによる講習から、初日の試合が始まるまでの間も、どうすれば寄り添うことになるのかを考えましたが、よく分からないままで試合を迎えました。１試合目を終えて、反省を頂いて感じたのは、正しい判定をすることはもちろん大切で、「プレーコーリングが大事」と言われましたが、その正しい判定をするために、「メカ」や「IOT」などが根底にあるのだと思いました。 これは初めて会う他県の方とのクルーで、しかもゲーム中に会話でのコミュニケーションを取りづらい、という制約の中だったからこそ、より強く感じることができたのだと思います。誰とでもクルーを組めて、判定をすることができるために、「メカ」「マニュアル」「IOT」があることを確認できたので、今後の審判活動の中でも大切にしなければいけないと思いました。 また「寄り添う」というのは、ゲームフローを捉えて、選手やベンチ（コーチ）をはじめとする、ゲームに関わる人の想いをくみ取ることでもあり、それは、ファウルバランスや Same play Same call、バイオレーションの判定など、試合中の多くの場面でできることなのだと、今回、反省やアドバイスをいただいた中で出すことのできた、自分なりの１つの答えです。 クルーやＴＯに寄り添うというのも、積極的なコミュニケーションが必要で、ローテーションのミスや確認不足によって、試合の進行を遅らせてしまうこと、ＴＯミスなども少しの気遣いや把握によって、回避できるものなので、やりすぎるくらいでちょうどよいと感じました。 今回のクリニックを通して、Ｂ級審判員として、まだまだ成長しなければならないことを痛感しました。自分が成長することで、所属連盟である U15 をはじめ、埼玉県全体に貢献していきたいと思います。 最後に、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、講師の藤代様、若林様、ご指導いただいた各都県の U15 審判長の皆様、今回のクリニックに派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会、日々ご指導いただいているすべての皆様へ、心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

県外派遣報告書

審判員名	清水　実咲	所属　　U15
大　会　名	関東U15部会所属　審判クリニック	
期　　間	2024年2月23日（金）～24日（土）（参加日：2月23日・24日）	
会　　場	塩浜市民体育館	

スケジュール

期　　日	内　　容	場　　所
2月　19日	開講式、講習会	ZOOM会議　参加者自宅他
2月　23日	関東U14DC交流試合（女子）	塩浜市民体育館
2月　24日	関東U14DC交流試合（男子）	塩浜市民体育館

会議　講義　内容

東京都審判委員長の草野氏より、「積極的に参加をしてほしい。決して良い恰好をしようとするのではなく、日頃の力を発揮してほしい。」「講師の方々や各県の委員長に質問を積極的にすること。」と最初にご挨拶を頂いた。

講師の藤代氏、若林氏より、関東クリニックを迎えるにあたってレクチャーを頂いた。概要は以下の通り。

〇藤代氏
・「自分がどんな審判員を目指しているのか」を大事にしてほしい。
・クルーの中でコミュニケーションをとりながら、自分の持ち味を十分発揮してほしい。
・仲間を作って、各所属県を盛り上げてほしい。

〇若林氏
・「なぜ審判をやっているのか」。若林氏の場合は、仲間と審査会を受ける中で悔しい思いを何度もしたり、同じライセンスの仲間が増えて負けたくないと思ったりして、上級を目指すようになった。
・メカニクス、IOT、プレーコーリング、プレゼンテーションの4項目の中で、若林氏が考える最も大事な項目は「プレーコーリング」。
・今回のクリニックのテーマは「寄り添う」。審判が寄り添うのは、選手、ベンチ、クルー（TO）、保護者、観客に対してだが、誰に対しても重要なのが「プレーコーリング」。ファウルやバイオレーションに関して、適切にルールブックに則って判定することが大切である。
・全審判員が同じ判定はできないが、同じような判定はできる。
→ヒント①「選手、チームの特徴の把握」
　プレゲームカンファレンスで、スピード、シューター、ビッグマン、すぐ倒れる、プレス、カッティング、小さいチーム、アピール、怖いコーチ、などについて情報共有する。
→ヒント②「ゲームフローの把握」
　テンポセット、タイムアウト、交代、チームファウル、点差、EOQ、EOG、ナチュラルインターバル、インテンシティ、などについて、ゲーム中に気付き、把握する。

実技

期　　日	2月23日（金）　U14DC女子

＜対戦カード＞千葉 vs 山梨（U1）
＜相手審判＞　CC：新井　のどか氏（群馬）　U2：白銀　菜々氏（千葉）　＜主任＞　草野　伸明氏（東京）
・ローテーションが崩れそうな場面があったが、3人で目を合わせながら修正できていた。
・TOに寄り添うという意味では、スローインやスリーポイントのフラッシュなどはTO席に近い方の手を挙げると、TOにもクルーにも分かりやすくてよい。
・センターやリードの時にボールを見ていることが多いので、他のクルーを信頼して、思い切ってボールから目を切ることも大切。自分のプライマリのマッチアップを気にしたり、ベンチ目線でプレーを見たりすると、自然とボールから目を切ることができるようになる。
・トラベリングの判定は、選手に伝えるという意味では選手の方を見ながらジェスチャーを出せるとよい。

＜対戦カード＞群馬 vs 神奈川（CC）
＜相手審判＞　U1：白銀　菜々氏（千葉）　U2：新井　のどか氏（群馬）　＜主任＞　若林　哲氏（埼玉）
・3人のローテーションが重たい時があった。ボールがミッドラインの端にある時には、セットアップポジションではなくクローズダウンポジションにいて、ボールがミッドラインを超えたらすぐにスイッチサイドできるとよい。スイッチサイドした後に逆サイドにボールが振られたとしても、センターが見ていてくれるはず。

＜対戦カード＞東京 vs 茨城（U2）
＜相手審判＞　CC：白銀　菜々氏（千葉）　U1：新井　のどか氏（群馬）　＜主任＞　荻野　健氏（山梨）
・プレーコーリングについては、3人ともよかった。
・ローテーションに関しては、ピンチザペイントをもっと有効に使って、そこからスイッチサイドするのか、我慢してバックペダルを踏むのか判断出来るとよい。
・ゲーム終盤、スローイン直前で交代しようとしていたベンチに気付かないことがあった。1日の最終試合で選手も疲れがあるなど、チームに寄り添うことが大切。TO席付近への気配りができるとよい。
・リードの見方がベースラインと平行になっていたことが何回かあった。常に45度の角度を保ったまま見られるとよい。

期　日	2月24日（土）　U14DC男子

＜対戦カード＞千葉 vs 茨城（U1）
＜相手審判＞　CC：三沢　奈央氏（山梨）　U2：白銀　菜々氏（千葉）　＜主任＞　栗田　賢吾氏（神奈川）
・男子ゲームに女性3名という割当だったが、フィットネス的にも問題なく、3人それぞれが自分のプライマリのものを力強く判定できていた。
・ゲームが終盤まで接戦だったからこそ、3or2の確認をもっと丁寧にできるとよかった。特に男子は速い展開が多い中で、ニュートレイルが追いつかない時にはニューリードやニューセンターがフラッシュしてあげるとグッドクルーワークにつながる。
・リードの3Pの見方は、もっと分かりやすく体を開いて、足を運んで見に行くようにする。
・スローイン前、笛を入れたほうがいいケースもある。（交代で時間がかかった時、少し引き締めたい時など）

＜対戦カード＞東京 vs 栃木（CC）
＜相手審判＞　U1：白銀　菜々氏（千葉）　U2：三沢　奈央氏（山梨）　＜主任＞　林原　潤氏（千葉）
・センターからセカンダリで判定できていたのはよかった。
・1QのEOGはオポジットで5秒以内でプレーがあったため、TO席側のセンターが鳴らすべきだった。
・3Q東京の速攻の場面。UFになりそうな場面をNFで判定し、ベンチからアピールがあった。ファウルの後の倒れ方も大きく、UF(C2)にしてよかった。少しでも迷ったのであればすぐにコールせず、他のクルーを呼び、話し合ってもよかった。

＜対戦カード＞群馬 vs 埼玉（U2）
＜相手審判＞CC：白銀　菜々氏（千葉）　U1：三沢　奈央氏（山梨）　＜主任＞荻野　健氏（山梨）
・チームファウルの把握がもっとできるとよかった。ボーナスになる場面では、コールするクルー以外はすぐにフリースローのラインナップができるように準備をする。審判員はスピードアジャスターでもあることを忘れず、いつでもスムーズなゲーム運営を心がけること。

全体の感想

この度は、U14関東近県交流大会へ派遣していただき、ありがとうございました。今回、初めて他県の方々と交流させていただき、一審判員として大変刺激を受けました。
この二日間、各県の上級審判員の方々に直接ご指導いただく中で、今回のクリニックのテーマである「寄り添う」ことの大切さを改めて実感することができました。特に、ゲームフローの把握が課題であると感じました。試合中に1つでも多くの気付きができるように、色々なところに目配り気配りをして「寄り添う」ことのできる審判員になれるよう、今後の審判活動にさらに力を入れていく所存です。
最後になりますが、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、講師の藤代様、若林様をはじめとした審判員の皆様、今大会へ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導してくださっている皆様へ心より感謝申し上げます。今後とも、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

県 外 派 遣 報 告 書

審判員名（報告者）	羽田　菜奈美	所　　属	U15 連盟
大 会 名	令和５年度　関東 U14DC 交流試合		
期　　間	２０２４年　2月２３日　～　２４日（参加日：2月２３日，2月２４日）		
会　　場	千葉県　塩浜市民体育館		

ス ケ ジ ュ ー ル

期　　日	内　　容	場　　所
2月　２０日	研修会	ZOOM 会議　自宅
2月　２３日	実技	塩浜市民体育館
2月　２４日	実技	塩浜市民体育館

研修会　講義内容

東京都　藤代氏、栃木県　若林氏より今回の関東クリニックに向けてご講義をいただいた。

●クルーと協力する。

●自分自身が何のために審判をしているか。なぜ審判を始めたか。

●審判をするうえで一番大切なことはプレーコーリング。

●関東クリニックのテーマは「寄り添う」寄り添う相手は、監督、選手、観客、保護者がいる。

担当試合①

期　　日	2月２３日（金）
対戦カード	千葉　vs　茨城
ク　ル　ー	CC：東京　原添氏　U1：山梨　三沢氏　U2：埼玉　羽田
ミーティング内容	審判主任：栃木　若林氏　　茨城　木村氏

ローテーションを完了するまでの４段階…セットアップ→クローズダウン→ピンチザペイント→ローテーションを意識する。

セットアップポジションからいきなりローテーションを始めてしまうとローテーションミスが生まれやすい。

ボールを追いかけすぎてオフボールの動きを疎かにしない。ミドルドライブなどは覗き込まず、体を動かす。

クルーのプライマリで何かが起こっている際に見えなそうなところを感じて助ける→寄り添い

担当試合②

期　　日	2月２３日（金）
対戦カード	千葉　vs　群馬
ク　ル　ー	CC：山梨　三沢氏　U1：埼玉　羽田　U2：東京　原添氏
ミーティング内容	審判主任：栃木　若林氏　　山梨　荻野氏

ローテーションを完了してから体をコートに向ける。先に体をコートに向けて下がらない。

もう少しピンチザペイントの意識を。もう少し吟味してからローテーションする必要がある。

ファールやバイオレーションをコールした時の見せ方。体が小さい分見せ方の工夫が必要。

担当試合③

期　　日	2月２３日（金）
対戦カード	埼玉　vs　栃木
ク　ル　ー	CC：埼玉　羽田　U1：東京　原添氏　U2：山梨　三沢氏
ミーティング内容	審判主任：栃木　若林氏　埼玉　若林氏

トスアップの仕方。下に一旦下げ、勢いをつけてしまうとジャンプボールのタイミングを図られてしまう。

できる限り高い位置から親指でボールを押す。その際にボールに回転がかからないよう注意する。

トスアップは笛を鳴らしてから行う。
シリンダーの整理。ピポットが踏めない状況まで追い込まれたらコールする。軸足を挟む DF は NG。
ファールコール後は何をやめてほしくてコールしたか。メッセージを伝える。
手などは早めに整理する。始めのテンポセットが大切。

担当試合④	
期　　日	２月２４日（土）
対戦カード	埼玉　vs　東京
ク　ル　ー	CC：東京　原添氏　U1：群馬　新井氏　U2：埼玉　羽田
ミーティング内容	審判主任：東京　藤代氏　　千葉　林原氏

いくつかあったファールコールの中でプライマリではないクルーがシングルで鳴らしているケースが多かった。→この場合はタイムアウト時などに確認をし、プライマリがどのように見えていたか確認ができるとよい。
上記のすり合わせができると、マージナルなのか、ファールなのかの選別がしやすくなる。

担当試合⑤	
期　　日	２月２４日（土）
対戦カード	千葉　vs　神奈川
ク　ル　ー	CC：群馬　新井氏　U1：埼玉　羽田　U2：東京　原添氏
ミーティング内容	審判主任：東京　藤代氏　　東京　草野氏

UF について（C4）接触があった後、オフェンスはシュートまで行けていた。
コールされたのは AOS 前。ここで一旦流れを見て、シュートを打ってからコールできれば NF でバスケットカウントにできる。
→選手への寄り添い
AOS 前でコールし、UF になった場合は適切な処置でゲームを再開する。

担当試合⑥	
期　　日	２月２４日（土）
対戦カード	茨城　vs　山梨
ク　ル　ー	CC：埼玉　羽田　U1：東京　原添氏　U2：群馬　新井氏
ミーティング内容	審判主任：東京　藤代氏　　茨城　木村氏

ローテーションがあまりスムーズにいっていなかった。FT　やゲーム再開の際のアイコンタクトが少なく、クルー間でのコミュニケーションが薄かった。クルーはもちろん、TO 間とのコミュニケーションも大切にするとよい。
観客やベンチに見られているので、自分の動きやシグナルが周りに見られているという意識を持つ。

全体の感想

　まず初めに、開催県である千葉県バスケットボール協会の皆様、関東クリニックへ派遣してくださった埼玉県バスケットボール協会、また日頃からご指導くださっている方々へ感謝申し上げます。

　今回の研修では、新しい知識の習得と新たな課題の発見ができました。他県の方々と交流し、試合中のアイコンタクトでのコミュニケーションやローテーションの気配り、プレゼンテーション、プレーの吟味などが今後の課題であるということを実感することができました。

　また、「寄り添う」をテーマに行われた今回の研修で、一つ一つのプレゼンテーションやコールが誰に寄り添っているのかを考えることができました。寄り添う相手は選手やコーチ、クルー、観客や保護者などがあります。試合でコートに立つ一員として試合に関わっているすべての人に寄り添えるようこれからも精進していきたいと感じています。

　今回の経験を今後に生かせるよう、これからも邁進してまいります。

　以上で派遣報告とさせていただきます。ありがとうございました。

※本報告書の体裁は報告者自身にて自由に変更いただき問題ありません。分かりやすいよう図や写真を入れることも可能です。